

図書館評価について

さいたま市図書館ビジョンの4つの基本的方向性を評価の目標として、令和4年度の指標と目標値を設定しています。

令和4年度目標、指標及び目標値

基本的方向性 1 知りたいにこたえる

目標	指標	目標値
(1)レファレンスサービスの充実による市民の課題解決の支援	レファレンス受付件数	130,000件
(2)市民の課題解決に役立てられる資料の提供	知識の獲得に対する図書館資料の貢献度	3.83ポイント
	課題解決に対する図書館資料の貢献度	3.59ポイント
	新しいチャレンジに対する図書館資料の貢献度	3.67ポイント
	個人的な楽しみに対する図書館資料の貢献度	3.88ポイント
(3)図書館利用に障害のある方への支援	バリアフリー資料の所蔵数	24,400点
(4)専門的職員の養成による図書館サービスの質の向上	図書館専門研修の実施・派遣回数	310回
(5)図書館評価と市民意識の反映	利用者満足度	91.5%

基本的方向性 2 本と人をつなげる

目標	指標	目標値
(1)市民の多様な要求にこたえる資料の充実	蔵書新鮮度	3.34%
(2)情報発信による図書館利用の促進	貸出総数	9,834,000点
(3)講座等の催しと市民の交流の場の提供	講座等の満足度	89.5%
(4)資料の紹介による本との出会いの創出	テーマ資料展示の実施回数	935回
(5)安全で快適な環境の整備	防災・消防訓練の実施回数	41回

基本的方向性 3 子どもの豊かな心と生きる力をはぐくむ

目標	指標	目標値
(1)子どもの世界をひろげる資料の紹介	子ども向けブックリストの作成数	49点
(2)子どもが本に親しむ機会の提供	おはなし会の開催回数	1,100回
(3)家庭・学校等との連携による子どもの読書活動への支援	読書が好きな子どもの割合(小学生)	82.0%
	読書が好きな子どもの割合(中学生)	73.0%
	読書が好きな子どもの割合(高校生)	82.6%

基本的方向性 4 つながりから地域の未来をひらく

目標	指標	目標値
(1)地域の歴史と文化の保存	地域・行政資料の蔵書数	167,000冊
(2)市民との協働による地域交流の活性化と持続的な交流の場の提供	ボランティアとの協働事業数	114事業
(3)市の各部署との連携による市民生活の向上	さいたま市との連携部署数	29部署
(4)県・他自治体・民間等との連携による市民の知的活動への支援	さいたま市以外の自治体及びNPO等民間との連携機関数	20機関

令和2年度図書館評価一覧 『令和3年度さいたま市図書館評価報告書（令和2年度事業対象）』より

目 標		評価	指 標
知的 好奇心に 応える 図書館	①	図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化	B 新規登録者数=b 貸出総数=b 来館者数=c 貸出利用人数=b 市民一人当たりの貸出数=b メールマガジン配信件数=a パブリシティ件数=評価せず
	②	幅広く計画的な資料の収集・保存	B 資料回転率=b 雑誌タイトル数=b 新聞タイトル数=b 所蔵タイトル数(図書)=b 市民一人当たりの資料数=b
	③	地域の歴史と文化の保存	B 地域・行政資料の蔵書数=b デジタル化してインターネット公開した地域資料の閲覧回数=a
	④	ICT(情報通信技術)を活用したサービスの充実	A ホームページコンテンツの充実=a インターネット延利用人数=評価せず 自動貸出機の整備=a
	⑤	文化事業の開催	評価せず 講座等の実施回数=評価せず 講座等の参加人数=評価せず 映画会の開催回数=評価せず 映画会の参加人数=評価せず 展示会の開催回数=評価せず
生きる 力を支える 図書館	⑥	あらゆる世代に向けたサービスの充実	B テーマ資料展示の実施回数=評価せず 各世代向けの本の紹介資料作成=b
	⑦	レファレンスサービスの充実	B レファレンス受付件数=c レファレンス事例の公開件数(年間)=c 職員レファレンス研修の開催回数=a パスファインダー(調べ方案内)作成数=a
	⑧	地域の課題解決	B 町おこしや地域活性化、地域コミュニティなどの課題に関わる資料の市民への提供=評価せず 市の各所管からの業務に対する問合せ件数=b
	⑨	生活支援サービスの展開	A 日常生活での課題解決に関わる分野の情報提供の取組=a
	⑩	バリアフリーサービスの充実	B 音訳資料・点訳資料の所蔵数=b 対面朗読回数=評価せず 宅配サービスの貸出数=a
	⑪	多文化サービスの充実	A 外国語資料の受入点数=a 多文化サービスに関わる展示=a
	⑫	子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携	C 小学生の不読者の割合=c 中学生の不読者の割合=c 高校生の不読者の割合=c 子ども向け行事開催数=評価せず 読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施=評価せず 子ども向けの資料案内の作成=a 学校・保育園等に対する訪問・招待実施回数=評価せず
市民と ともに 歩む 図書館	⑬	図書館評価と市民意識の反映	A 図書館評価の実施と公表=a 「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」の実施と公表=a
	⑭	市民との協働	評価せず ボランティアとの協働事業数=評価せず ボランティアとの協働事業の延実施回数=評価せず
	⑮	関連機関(公共機関・民間機関・NPO)との連携	評価せず 連携事業の連携先機関数=評価せず 職場体験の受入件数=評価せず
	⑯	地域の特色を生かした運営	評価せず 地域の特色を生かした取組=評価せず
誰もが 安心して 図書館	⑰	親しみやすい図書館づくり	B 「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」における満足度=b
	⑱	職員の資質・能力の向上	評価せず 組織内研修の実施回数=評価せず 派遣研修の件数=評価せず
	⑲	専門的職員の配置	評価せず 専門性の向上につながる研修の受講=評価せず 専門性の向上につながる研修への講師等としての派遣=評価せず
	⑳	施設・設備の充実	A 施設・設備の計画的な改修及びバリアフリー化の推進=a
	㉑	持続的で安定した図書館の運営	B 業務マニュアルの整備・見直し=a 財源確保や経費節減につながる取組=c
	㉒	危機管理体制の強化	A 職員の危機管理意識を高める取組=a

評価基準

A—達成した B—ほぼ達成した C—あまり達成できなかった D—達成できなかった

* 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館の影響を受ける目標値は補正を行い評価した

* 休館の影響だけでは目標値の補正を行うことが困難と判断した指標については「評価せず」とした